

経済情報：2024年4-6月期の 実質GDP成長率（1次速報値）

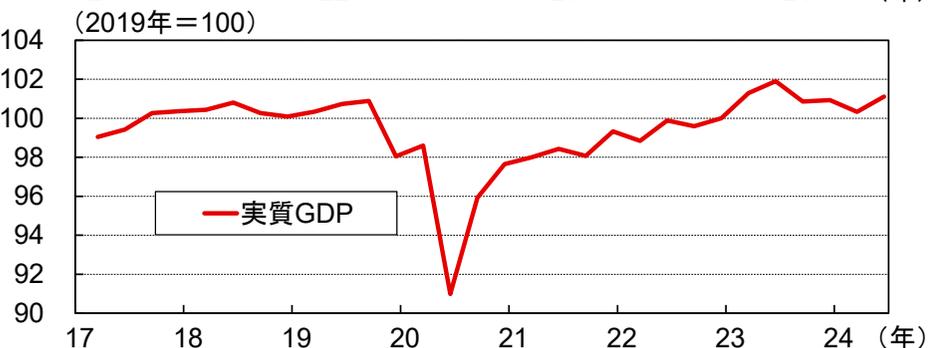
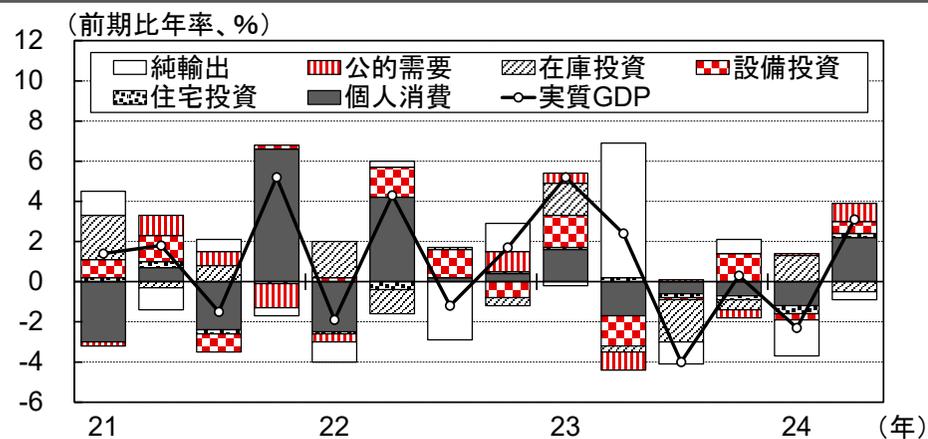
2024年8月15日

三菱UFJ銀行 経営企画部 経済調査室

1. 要旨

- 2024年4-6月期の実質GDP成長率(1次速報値)は前期比年率+3.1%とプラス成長に転じた。前期には一部自動車メーカーの生産停止が広範に経済活動を下押ししており、その反動から高めの成長率となった。
- 足元では春闘における高い賃上げが実際の賃金に徐々に反映されつつあるほか、円安の巻き戻しも消費者マインドの改善に寄与するとみる。また、日銀短観6月調査でも企業の高い設備投資意欲が引き続き示されていることから、先行き、景気は回復が続くと予想。

実質GDPと最終需要の推移



(資料)内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

四半期別実質GDPの推移(計数)

	2023年 10-12月期	2024年 1-3月期	2024年4-6月期(1次速報値)	
			3.1	(寄与度)
実質GDP	0.3	▲ 2.3	3.1	—
民間需要	0.1	▲ 0.8	3.4	(2.5)
個人消費	▲ 1.2	▲ 2.2	4.0	(2.2)
住宅投資	▲ 4.2	▲ 10.1	6.7	(0.2)
設備投資	8.6	▲ 1.8	3.6	(0.6)
在庫投資	(▲ 0.5)	(1.3)	—	(▲ 0.5)
公的需要	▲ 1.7	0.2	3.7	(0.9)
政府消費	▲ 0.5	1.1	0.3	(0.1)
公共投資	▲ 6.5	▲ 4.3	19.5	(0.9)
純輸出	(0.7)	(▲ 1.8)	—	(▲ 0.4)
輸出	12.6	▲ 17.2	5.9	(1.2)
輸入	8.3	▲ 9.6	7.1	(▲ 1.6)
GDPデフレーター(前期比)	0.6	0.3	1.0	—
名目GDP	2.8	▲ 1.0	7.4	—

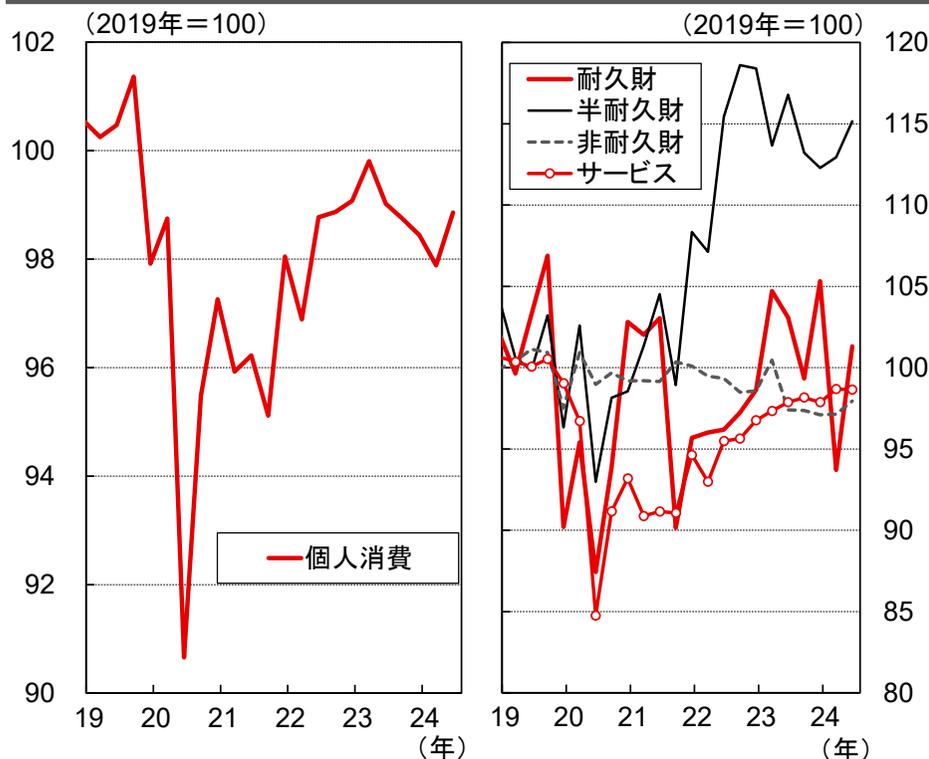
(注)カッコ内は、実質GDPの前期比年率伸び率に対する寄与度。

(資料)内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

2. 内需項目

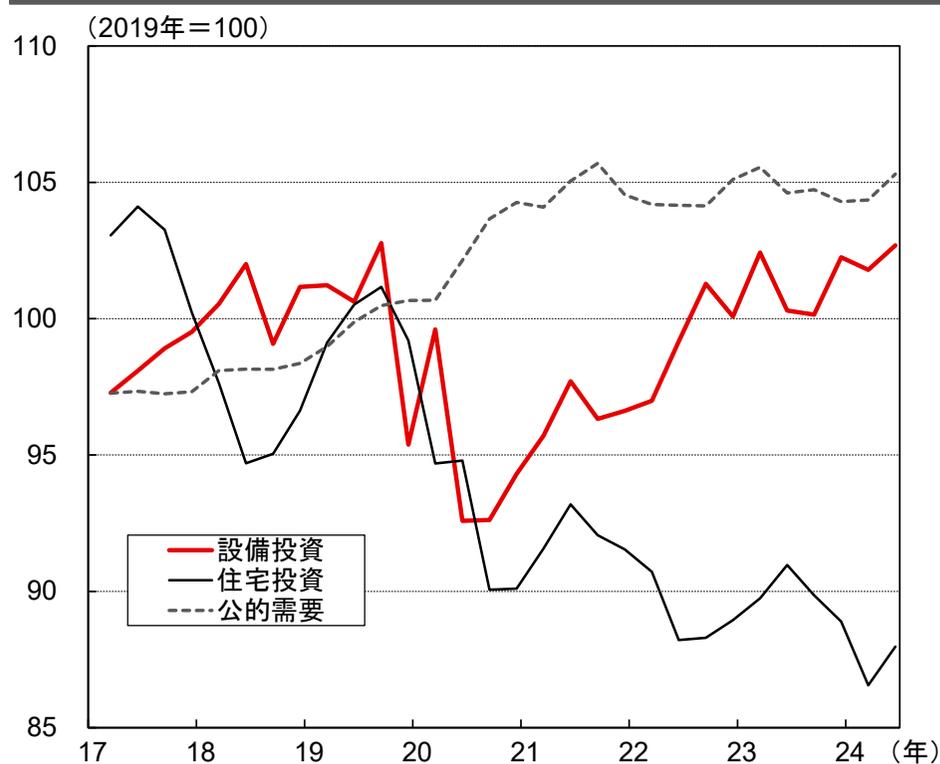
- 個人消費は前期比年率+4.0%と5四半期ぶりに増加。一部自動車メーカーの生産停止の影響が緩和されたほか、賞与が前年に比べ大きく増加したことも『耐久財』を中心に消費の押し上げに寄与したとみられる。
- 設備投資は同+3.6%と2四半期ぶりに増加。個人消費同様、一部自動車メーカーの生産停止の影響緩和に加えて、半導体市況の改善やデジタル化・脱炭素化も設備投資を下支えしている可能性がある。
- 住宅投資は同+6.7%と4四半期ぶりに増加。
- 公的需要は同+3.7%と、公共投資に牽引される形で2四半期連続で増加。

実質個人消費、財・サービス別実質個人消費の推移



(資料)内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

その他の内需項目の推移

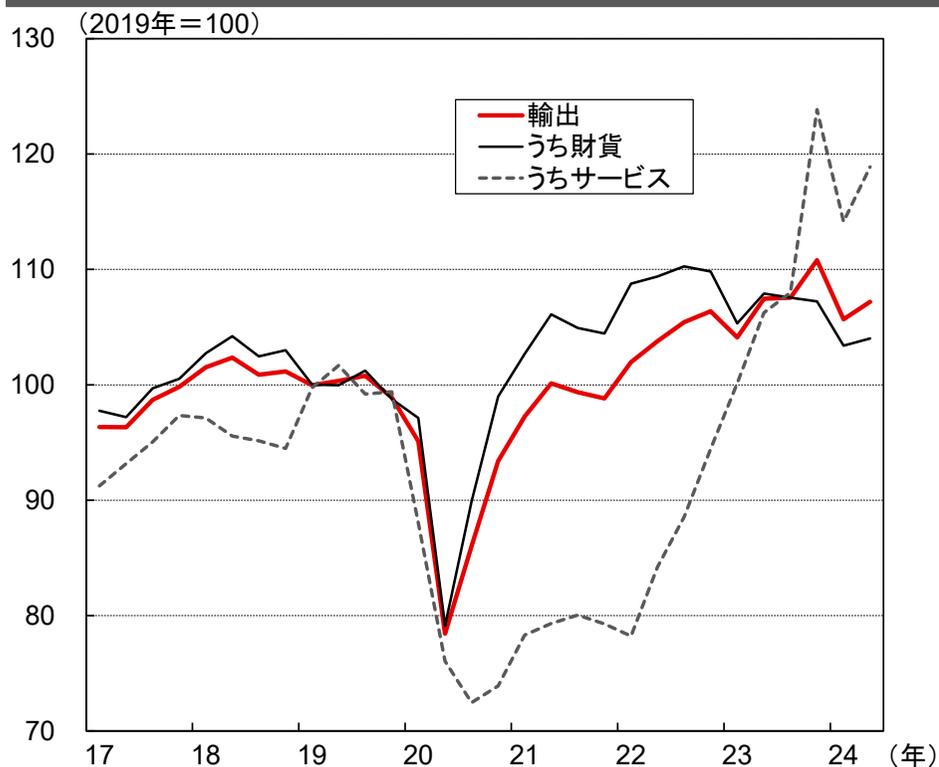


(資料)内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

3. 外需項目

- 輸出は前期比年率+5.9%と2四半期ぶりに増加。自動車が回復を牽引したとみられる。
- 輸入は同+7.1%と、2四半期ぶりに増加。
- 結果として、純輸出(輸出－輸入)の寄与度は同▲0.4%ポイントと2四半期連続でマイナス。

輸出(財・サービス別)の推移



(資料)内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

輸入(財・サービス別)の推移



(資料)内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。

会社名：株式会社三菱UFJ銀行 経済調査室
〒100-8388 東京都千代田区丸の内2-7-1

照会先：矢吹 彩 e-mail:sai_yabuki@mufg.jp